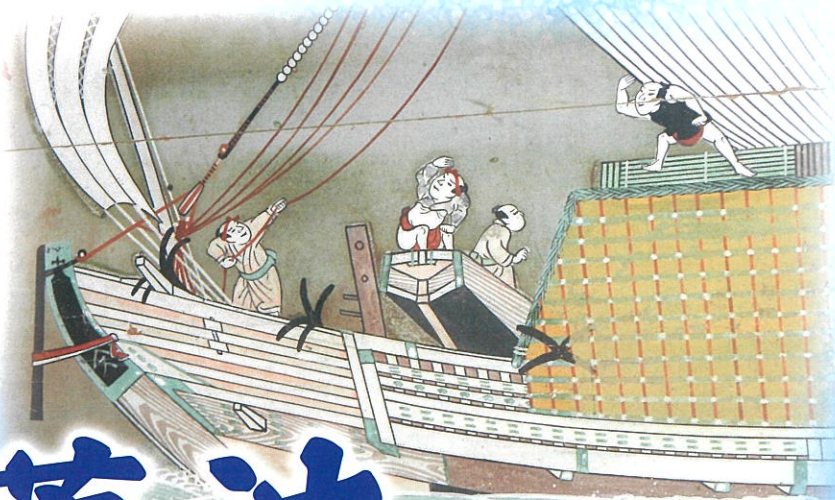


由利本荘市・鶴岡市・にかほ市 三市連携交流企画第3弾



# 荒波を越えて絆いだ 歴史と文化

## ～北前船の残像～

日本遺産  
「北前船」  
展



付  
帯  
事  
業

- ①三市連携ギャラリートーク  
10月12日(土) 11:00～12:00 由利本荘市本荘郷土資料館
- ②講演会と北前船ゆかりの芸能  
11月9日(土) 13:30～15:30 西目公民館シーガル



令和6年 令和7年  
9月14日(土)～1月13日(月)

由利本荘市本荘郷土資料館  
本丸体験学習施設 修身館

秋田県由利本荘市石脇字弁慶川5  
TEL 0184 (24) 3570 FAX 0184 (24) 3571  
秋田県由利本荘市尾崎地内(本荘公園内)  
TEL・FAX 0184 (28) 4722

## ◆ 北前船とは？

江戸時代中期から明治時代中・後期にかけて、日本海で交易を行った商人などが船主の荷物を積んで沿岸を走る船を「北前船」といいます。または、こうした船による海上取引のことを指す場合もあります。北前とは上方（関西地方）からみた北陸から北海道にかけての日本海沿岸の地域を指した呼び方です。

北前船として使われたのは「ベザイ船」という形の船です。漢字では「弁才」または「弁財」と書きますが、白く巨大な帆1枚で風を受けて走る船をベザイ船といいます。江戸時代中期までは地方ごとに特徴ある形の船がありましたが、ベザイ船は船体が堅牢なのに加えて、船首が鋭く帆をあやつり逆風でも進むことができる優れた性能がありました。そのため、江戸時代中期以降の北前船はベザイ船が主流となりました。

北前船は波が穏やかな春になると、大阪から北海道（江戸時代の地名では「大坂」から「蝦夷地」）に大量の物資を積んで向かいます。その途中の港で、積んだ物資を売り、その地域の産物を買って交易を行いました。北前船は現代でいえば「動く総合商社」のような存在でした。

## ◆ 展示会場

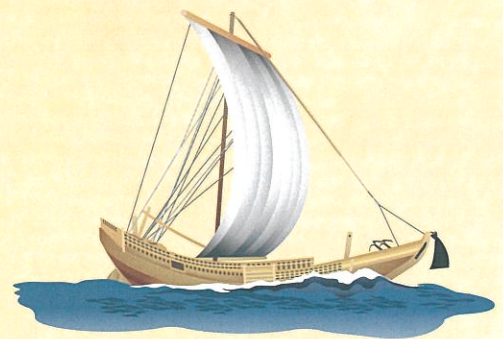
### (1) 由利本荘市本荘郷土資料館

- ・会期：令和6年9月14日（土）～令和7年1月13日（月祝）
- ・開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- ・入館料：大人100円、学生無料
- ・休館日：毎週月曜日および12月28日から1月3日  
（ただし月曜日が祝日の場合は、翌日が休館）
- ・テーマ「荒波を越えて絆いだ歴史と文化～北前船の残像～」
- ・主な展示資料：八幡神社石製狛犬（秋田県指定有形文化財）、石脇絵図、越前瓦、船絵馬、往来手形



### (2) 修身館

- ・会期：令和6年9月14日（土）～令和7年1月13日（月祝）
- ・開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- ・入館料：無料
- ・休館日：毎週月曜日および12月29日から1月3日  
（ただし月曜日が祝日の場合は、翌日が休館）
- ・テーマ「北前船のQ&A」
- ・主な展示資料：船筆筒、船絵馬、鬼瓦



## ◆ 付帯事業

### (1) 三市連携ギャラリートーク

- ・日時：令和6年10月12日（土）午前11時～12時
- ・会場：由利本荘市本荘郷土資料館（由利本荘市石脇字弁慶川5）
- ・パネラー：致道博物館主任学芸員（鶴岡市）、にかほ市職員、由利本荘市職員

### (2) 講演会と北前船ゆかりの芸能

- ・日時：令和6年11月9日（土）午後1時30分～3時30分
- ・会場：西目公民館シーガル（由利本荘市西目町沼田字新道下2-533）
- ・内容：講演会「北前船と由利の湊」新堀道生氏（秋田県立博物館主任学芸専門員）  
北前船ゆかりの芸能、民謡の上演等